

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 金沢市立三馬小学校

種別  保育園・幼稚園       小学校       小中一貫教育  
 中学校       中高一貫教育       高等学校  
 教員養成       技術/職業教育  
 特別支援学校       その他（                 ）

所在地 〒921-8164  
金沢市久安6丁目154番地

E-mail minma-e@kanazawa-city.ed.jp/minma-e

Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/minma-e

児童生徒数 男子365名      女子355名      合計720名  
児童・生徒の年齢 7歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（キャリア教育）

### 3. 活動内容

#### 1 活動概要

##### (1) 3年 「地域の人と交流して学ぼう」

学校の伝統である「三馬っ子音頭」を4年生から受け継ぎ、指先から目線まで意識して上手に踊れるよう練習を重ねた。「三馬っ子音頭」制作に携わった先生からも当時の様子や願いを聞き、その願いを下級生や地域の方に伝えていきたいという思いを持って踊ることができた。

地域の伝統である「泉じょんがら」や「虫送り太鼓」について教えていただく会では、地域の方から、どのような思いでそれらの伝統を受け継いできたのかについてのお話を聞き、実際に踊ったり太鼓を叩いたりしながら、伝統を受け継ぐ人の思いについて知ることができた。

「三馬むかしたんけん」では、公民館や育友会の方と一緒に校区を探検し、三馬校区の歴史について学ぶことができた。

「和菓子・茶道体験」では、校区にある和菓子屋さんを迎え、職人さんの巧みな技や工夫に感動し、和菓子のおいしさ・美しさを味わった。また、茶道の先生より茶道の歴史や作法とともに大切な心も学ぶことができた。

これらの学習を通して、児童は自分の暮らす三馬校区についてより目を向けるようになり、地域への関心をさらに高めることができた。また、地域の方との交流を通して、相手の立場に立って考えることの大切さや、伝統文化を通して、伝統を受け継いでいくことの大切さを実感することができた。



##### (2) 4年 「みんなが住みやすい町」

町には、いろいろな人が住んでいるので、障害のあるなしに関わらず赤ちゃんからお年寄りまで、全ての人にとって、〈三馬校区が住みやすい町か〉調べた。

聴覚障害の方と手話で話したり、視覚障害の方から、便利な道具や点字について教えていただいたりすることを通して、相手のことを考えながら気持ちを伝えることの大切さを学んだ。疑似体験では、ブラインドウォークや車いす、高齢者体験などを行い、目が見えない恐怖や毎日の生活で苦勞することを肌で感じた。また、介助してくれる人の必要性や安全・適切に介助する難しさも知った。

学習の終末には、「点字ブロックの上には物を置かないようにしたい」「目が不自由な方が困っていたら、声をかけていきたい」などと自分達にできることやより住みやすい町にするための案を考え、互いに交流し合った。



##### (3) 5年 「これからの伏見川を考える」

三馬小の校区に流れる伏見川は、子ども達も慣れ親しんでいる川である。子ども達は、20年後、30年後の未来にどんな伏見川になってほしいかを考え

た。伏見川の実態を調べるため伏見川の水質や生き物などを調査した。伏見川には、鳥や魚、水生生物などたくさんの生き物があり、生き物にとって住みやすい環境についてグループで調べた。調べたことを交流し、川岸が植物や土であったり、中洲があったりする川が生き物にとって住みやすいとわかった。改めて現在の伏見川を観てみると、川岸がコンクリートになっていることに気付いた。川岸がコンクリートでできている理由を調べるために地域や家の人などから聞き取りをした。すると、過去に洪水が起きて大きな被害があった事実がわかり、今の伏見川は防災（洪水対策）のために川岸がコンクリートで作られていることがわかった。そして、未来の伏見川を生き物にとっても人にとっても住みやすい川にするために、自然環境や防災の観点を取り入れた伏見川の未来理想図を考えた。その伏見川の未来理想図の実現のために地域の方などに発信をしようとしている。



#### (4) 6年 「つながろう世界の人々と」

世界で苦しむ子ども達について学習した。まず、エチオピアに行ったことがある教員の話聞き、世界では学校に行けなかったり、労働を強いられたりしている子どもがいることを知った。他にも兵士になる子どもや貧困生活を送る子どもなど世界には苦しむ子どもがたくさんいることに気づいた。そして「世界で苦しむ子ども達を助けたい」という思いを持ち、学習を進めた。世界で苦しむ子どもの実態と原因を調べ、自分達にできることを考えた。「フリーマーケットをして集めたお金を寄付しよう」と話し合い、取り組んだ。フリーマーケットでは、読まなくなった本を集め、地域の方などに販売した。集めたお金は、国際支援団体に寄付をした。学習後、子ども達は「これからも世界の人々に関わる活動があったら積極的に協力していきたい」と関心を高めていた。



#### (5) 全学年での取り組み

本学校では、全学年で「地域と関わる」ことを大切にして学習をしている。3年生は、地域の歴史について公民館の方に教えていただいた。4年生は、ユニバーサルデザインについて、地域ではどんな工夫がされているか学習した。5年生は、校区の伏見川の歴史や水質などを地域の方と関わりながら調べた。6年生は、世界で苦しんでいる子ども達のためにフリーマーケットを開催し地域の方に呼びかけた。これらの学習を通して、ふるさとの地域を大切にし、伝統を守ることのすばらしさや出会った方の生き方、人との関わり方などを学んでいた。

また、児童会活動で30年以上続く「オレンジ作戦」では、ボランティア委員会を中心に全学年でプルタブやペットボトルキャップを集めた。集まったものを換金し、熊本地震の義援金として熊本県に送る活動をした。

## 2 成果と課題

### (1) 成果

- ・子ども達は身近な地域の人から、お年寄り、障害のある方、世界の人々など多くの人々につながって共に生きるために、相手のことを考えながら行動することの大切さを学んだ。また、出会った方の生き方を通して、これからの自分の行動や将来の姿など、学んだことからこれからの生き方について考える児童の姿が見られた。
- ・地域の人とかかわり合う中で、学校や校区・金沢にある伝統や自然のすばらしさを知り、それらを受け継ぎ、「これからもこの伝統を伝えていきたい」と地域・ふるさとを誇りに思う気持ちがより育った。
- ・ESD カレンダーをもとに、総合的な学習の時間と他の教科との関連を図りながら実践を行い、子どもの主体的な学習となるよう見通しを持って取り組むことができた。

### (2) 課題

- ・育成したい能力・態度を明確にし、学年間の育成したい能力・態度や学習内容のつながりを見通したカリキュラムを作成をしていくこと。
- ・本年度は、他学校との交流があまりできなかった。ユネスコスクール間で連携し合い、つながりを大切にしつつ、内容ある交流を広げていきたい。

#### 4. 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）